

23. 家政学及び被服学の人文及び社会科学的研究方法について

静岡女子短大 柳原 文一

1. 家政学は生活全体を研究する学問であって、自然科学的研究のみでは成立しないのは勿論である。しかるに現在、研究発表に於ても、教育の面に於ても被服・食物等の自然科学的研究及び技術的教育が大部分を占めているのは何故であろうか、これは従来主婦の仕事の大部分は料理と裁縫であると考えられ、これらの専門的研究が家政学の本筋であるという考え方からきていると思われるが、また人文及び社会科学的研究の方法が殆ど考えられていないからではなからうか。私はここにその中の一つの研究方法について提案したいと思う。

2. 関連諸科学である心理学・社会学・社会心理学・倫理学・経済学・経営学等の業績の中、公理・定理ともみられるものを生活の個々の場面に演进的にまた帰納的に応用して我々の生活原理を追究する。

3. 家政学に於ては生活の理想像を追究しなければならない。現在のような調査・統計のみに終っていたのでは理論を打立てることはできない。生活は非常に複雑なものであるが、この複雑さの中にも、時勢の変遷は左右されない。あるいはそれに適応して行く原理を追究して行かなければならない。このために関連諸科学によって確立された原理を応用して、一つ一つ生活上の公理・定理を打立てて行って、次第に複雑な事象の解明に及ぼして行くという方法を提案する。